

青年隊 の部隊に際して

Scouting の訓育の方法として、また組織としての班制度は絶対不可欠のもので、青少年の成長に欠くことの出来ぬ大切な栄養食で、進歩剤、技能章剤はその材料であり、班制はその唯一の鍛錬法といえましょう。

少年が成長しスカウティングに慣れるにつれて 経験も深まりにつれ、その栄養食や、材料も、調理法も乗らねば 口Kあはなくなります。栄養価を充分に生かす為に 年長スカウトに於ける企画委員会制度が、班制度教育の組織的な展開、或は技能的な鍛錬として、班制と交錯併用される様に、青年スカウトになりますと、年長スカウトの企画委員会制が計画作成のために全スカウトが関与することに主たるねらいがあるのに対し、この上に複数グループへの参加といふ 活動範囲の拡大と、自由

選擇とが更に加わります。青年スカウトになりますと、平素の生活や、経済的な問題、寺で又職業、学業やその環境も異り、且時間的事情も、意味も、体力も夫々異つて来ます。従つて隊の統一活動のみでは常に全員の参加活動は期待出来ませんそれで スカウトとしての基礎訓練は勿論、班中心で行はれますが、外活動、奉仕活動等班に關係なく、その都度、「小グループ」を編成し、計画し、実施します。また班長の如何を問はず、その活動の経験者、或は興味の深いものがそのグループ即ち「小チーム」のリーダーになる特色を持つて来ます。この制度によれば、無理をせないで済むこと、年長スカウトの場合よりも更に多數の計画に参画出来、且その実行に責任を持つこと、交々ヒリーダーシップを

取る機会も多く出来ます。このチームは個々の活動の(計画と実行)単位による作業的グループといえましょう。

この実行上の要領として次の事項は確く守らねばならぬとされています。

- ① 年度毎の隊の方針の概要是一定の期間毎に隊会議(隊長と班長)で決定されねばならない。
- ② 活動の内容は勿論、この決定の伴の内で組立てられること。
- ③ チームの編成は隊全員の集会で行はれる。
- ④ 各活動の計画案及 実施後の報告記録は、都度隊会議に提出され、指導される。

以上の制度はスカウトプログラムの進行上の大切な問題の一つであつて、これは、一般、販賣、大学夫々の隊でも同じである。

只異なるところといえば、この方法によつて何が決定されるかの差のみである。個々の意や隊員の環

境や、特性、希望、必要、に基いて、個々の隊員から出された提案を元に多種多様となつて来ます。

更に大切なことはスカウト教育は実行の教育であるといつゝ点である 実行の教育とは何が実行されたか、のみではなく、如何に実行されたかに重点がある。即ち
 ☆ 何故、その活動が選ばれたか。
 ☆ どの様な手順で実行計画が立てられたか。

☆ どきいり組織や編成で実施されたか。
 ☆ どきいりリーダーシップで実施されたか。

以上の1,2,3の経過の着実な積上げの後実施され始めてその活動が人間形成に寄与することが多いので、勿論、実施後の反省検討、整理、並びに隊会議で提出された経験として貯えられる點にも、この積み重ねがなければならぬのです。

更に説明されねばならない重要なことは、この様な有用な活動も班制度と交錯し利用されねば

最終的価値は生まれないといふことです。例へば青少年が、外観から受けけるどんな影響や、体験も、それが生活の本流と言ひ家庭に持ち帰られ、家庭と言ひ其能によつて、時には混和され、時には精選されて始めて本流の意味で吸収される様に、班はスカウト生活の本流で、スカウトに対する内面的影響が非常に強いのです。そのことはグループ・ダイナミックの理想的発見の場として小さわしい形態と其能を備えているからです。

従つてスカウト各自が、企画委員会なり、チームの活動なりを通して得た経験は、そのまま吸収される場合もありますが、より道格なる吸收は各自の経験が班に持ち帰られ、班という熔炉の中で活力を高める材料となり、それ自体よりよい栄養素へ変化して始めて、期待されるからです。その経験表現に至る過程は、班集会の話題へ供せられる時もありうり、自然の向く班

生活に溶け込んでから、Kにみ出てくることもあります。グループ活動とは、そうしたものなのです。

ROVER SCOUT

訓練プログラム

- ローバスカウトとして先ず第一Kなすべきことは自分の生活の独立を確立することであり、自分を特別な人間にしてしまう罪を犯さぬことである。特別な人間とは *Peculiar People* 即ち衆人異り者とのことである。
- 初歩的仕事の最初は訓練であり、この事は強調しても過るといふことはない。従つて見習ローバーの訓練は少くともI級程度のスカウト技能を身につけることであり、精神的にもローバー訓練を受ける準備を整えることである。

訓練の分野

この事はスカウト各年の発展の為の非常に重要な訓練である。

- ① らかいとおきて
- ② 実技、技能、作業、

スカウト技能訓練

懸念、遠征訓練

選手プロジェクトの完成

奉仕訓練

③ 班、組の集合訓練

訓練の全野 ローバースカウト

④ 精神的基礎 らかいとお

スカウティングは人間の真K生きる道を発見する方法である故に自分立場を見究めるまでよく考へよとます要望される。ローバスカウトは、自己の進路の発見、自分の進路を扣まねばならない。もしもこの進路をよく扣まないならば、精神的推進力をよく扣まないならば、ローバスカウトだと自分を呼ぶ権利は無い。育成会、隊長、副長、によって感化指導を受けている期間は、自分をどの方向に伸すか 自ら決める期間である。

精神的には一個の人間としての見地から仏の法(教)を恩ひ 自分の生活の意識の度へ、利害損得を越えて人々の資質を育て様と説みるこれ等の資質は、他人より学んだり、吸収するものでなく、自ら出し

りつかねばならぬし、常人口一バスカウトは自分の周囲人材達を最初に発散させるものである。即ちスカウティングの中K 深い精神的なものゝあること そして宗教的人格の基準を作るものであることを要望される。

従つて1人のスカウトRS.) K 1枚し 僕を作り運営してこの」とはいわない。そんなことは、單K仕事の一部であり、真Kスカウト精神へ育てられ、真K奉仕を理解しKスカウトによつてなされる仕事であるからである。奉仕といふものは探求物がある。それは法K既き力久敵前は自由自在でこれを経ずして真Kローバスカウトになれないからである。

自己の宗教的訓練はスカウト生活の過程で草生えさせられている この東日本は生き残じてはいるけれども、要是難しければ難しい程 入格發展の道を扣むより努めねばならぬ。スカウティングの中で最も重要な目的は 入格の傳承といふものを自己の範囲内に求めるとい

うことである。その教法の上にくさびをしつかり打込んでもそれを基地として日々の生活をすれば成就する為の大きなエンジンとなる。スカウティングの行蹟は大きい。それはスカウト個々人への要望の反映である。善く正しい信仰を持つ多くの明朗な視野の広い人間性の豊かな人物になつて貰いたい。そして國家社会に奉仕出来る発電所として電力の供給出来る最善の水準まであげてくれと頼む。

② 実修訓練とは。実技、技能、や作業。

これ等は勿論前述の少くともノ般といふ前程の上である。

④ 野営 10面以上で合計20日以上 3ヶ所以上。

野営標準の厳守

記録と報告の作成と提出

⑤ 下記の技能章の内2個。スカウトを訓練し又テストの出来ること。

野営管理 飲食 信号 救急

測量、測候、案内、看護、森林愛護、鳥類保護。

⑥ 遠征 2人以上の小組でチームを組んで数回の大旅行を試み、交替でプランを組み、チームの編成、運営の責任者となる。耐久力、自立、創意工夫、決断、指導力について明確なテストを含む。

年長の技能章の訓練と考査能力

⑦ 奉仕(後日譲る)

⑧ 集合訓練とは

一定の期間、世界、或は国内事情に觸れる事で、教養問題として取上げられ、呼ばれるものである。誤ると駄辨会に落ち入るし比較的空虚な研究討議になり勝である。この事は実修訓練の探検と組合せば出来る。要は個の訓練であり、進歩を計るもので青年隊及隊会議が、全員の為に見聞を広め甲斐ある長続のする意味ある計画されプログラムである。内容の概容を記せば

a. 外口事情の研究

b. 口内、

⑨ 文化事情の研究。

⑩ 公共奉仕。

(これ等は教育宗教政治司法産業労働 美術演劇文学音楽、科学討論 等を云う) 公共奉仕は所属する宗教宗派の教義を利用し、追及し、且日常生活に実行し、いかにまさこの眞の価値を見出し、その実践をすることを意味する。

⑪ プロゼクト

技能、技術、その応用及管理監督、出話を必要とする課業を自ら探すことと言ひ。

- ⑫ 予備調査 資料その他の準備、研究計畫(6ヶ月以上)
⑬ 進況状況の報告少くとも3回(記録 模型 図表 地図 統計 写真 スケッチ、日誌、会計記録 その他)
⑭ 富士スカウトの考査
個人プロジェクト。

